

目羽
見白
天使
ネールと

悪臭魔物
ブグバグ

せがみ。

目次

登場人物	03～06
あらすじ	07
本編	08～38
本編後(バッドエンド)	39～49
本編後(ノーマルエンド)	50～52

※本編END後に2パターンの
続きがあります。

ネール

本作の主人公。

お調子者だが、優しい女の子。
赤子のときにルージュに拾われる。
それからは実の子のように育てられる。

ネールは魔力で翼を身につける能力を持っている。
翼を身につける能力の習得は、よほどの修練と技術がないと難しい
はずなのだがネールは自然にそれができていた。
魔物退治の経験は浅いが潜在能力は、とてつもなく高い。

翼を操り、魔物退治をする人間のことを
人々は、いつからか「天使」と呼ぶようになった。



オキル

幼少の頃、身寄りのないオキルをルージュが家族として受け入れた。

年齢はネールの2つ上。
ネールのことを妹というよりは親友のように感じている。
ネールと同じく翼を魔力で身につけることができる。

若いが魔物退治に関してはプロフェッショナル。
ネールよりも身体能力が高い。
既に多くの名の知れた魔物を倒しており実績もあげている。

普段はのほほんとしているが、怒らせると怖い。



ルージュ

ネールとオキルの育ての親。
自分の身は自分で守れるようにと三人を訓練してきた。
それは、魔物退治をさせるためではない。
ネールとオキルには魔物退治をさせたくないと
考えているが反対はしていない。

治癒系の魔法に関しての知識はトップクラス。
王国から声がかかるほどの実力者だが
現在住んでいる村に恩があるため
使いが来ても毎回断っている。
ちなみに翼を操作する能力はない。



フケツパ

ほとんどの魔物に知識はなく本能のみで人間を襲う。
しかし、知識をもった魔物も少数だが存在する。

フケツパも人間と同じように
知識があり会話もできる。
体中から悪臭を放っており、特に
股間とへその部分からは激臭がする。

体のいたるところから触手を伸ばすことができる。
一度、捕まったら逃れるのは困難。

いつ、どこで手に入れたかは分からないが
黄ばんだブリーフをはいており
それを、とても気に入っている。



あすし

村の周辺に魔物の巣を発見したルージュ。
村人へ被害が出る前にオキルは
魔物の巣へ向かうことにした。

しかし、2日経過してもオキルが帰ってこない。
心配になるルージュとネール。

ネールはオキルの搜索をするため
不安を胸に魔物の巣へ向かうのであった。

ビュウ

あった！
魔物の巣……
思ってたよりも
早く見つかった！

村から、かなり近いわね……
早くなんとかしなきゃ！

ビューー

見習い天使
ネール

それじゃ
行ってくるねー！

るすはんよるし
ね！

ネールの親友
オキル

ネール……
すまない……

オキルが出発してから
もう2日……
無事でいてね……オキル！

オキルが魔物の巣に向かってからもう2日か…

ネールとオキルの育ての親
ルージュ

今、この地区で動けるのは私とお前だけだが、私は今ここを離れるわけにはいかない

ルージュは村人の看病と結界の維持をしなきゃいけないもんね。

それにルージュは空飛べないでしょ!! 私なら上空から、すぐに魔物の巣を見つけられると思うから。

魔物もオキルのこともネールさんにまかせなさい!

すまない、ネール…。
気をつけるんだぞ。
危険だと感じたらすぐに戻れ。

うん。
それじゃ支度してくるね。

強がって、ルージュには
ああ言っちゃったけど
本当は不安……！怖い……。
でも、私がやらなきゃ……!!

オキルは私より、すごく強いし
大丈夫だとは思うけど……。
何があったのか確認しないとね……

よし！
これ以上いろいろ考えても
しかたない！
行こう!!

すごく深い穴……。
ここからだと思えない。
気をつけて進もう。

なんて深さなの。
だんだん上下の感覚がなくなっていくような…。

どこまで続いているんだろう？

!?

ナニ!? 何なの…?
このにおい…
鼻がおかしくなりそう。

下にいくほど
濃くなってる？

あ！明かりだ！
ようやくか…。
うう…！
なんだかうまく
力が入らない…
早く着地しよう。



な：何これ？
においの原因はこれ？
くっさいい……。
すごい臭い。

この液体は……なに？
壁も天井もうねうねしてる？
うううう……！
なんなの!?ここ……！
うううう！うえ！気持ち悪い！



向こうの方まで続いている。
このにおい、ダメ……。
耐えられない。息をとめて
いつきに飛んでいこう！

せえーの！

あれ？
翼に力が
入らない？

どうして？



おや、おや？お客さんかな？
……。

おおおお！
かわいい娘だなあああ……。

だれ!?

ビクッ
ウル

そっちじゃないよ。もう少し奥にいるよお。
早くおいで……。逃げようとしてもだめだぞお。
そのニオイの影響で力が出せないだろ？
もう俺のところに来るしか選択肢はないぜえ。

うう……卑怯者！
飛べなかったのは、このにおいのせいだったのね……。
でも少しくらいなら!!

……くう……。
だめ……ぜんぜん
翼に力はいらない。

ヒヒヒ

まあ、頑張ってくっさい精液プールを進んでいらっしやいな。
まってるからねえ

ううううう

それじゃあ
またねえ

あいつ、絶対ゆるさない!!
みつけて、やっつけてやる!!
オキルのことも聞かないと……

ここを通らないといけないんだよね……
うう……いやあ……ぬめってる。

おえええ……
くさいい。い。
気持ち悪いよ。
でも進まなきゃ。

そおーと

ザパン

うう……いやあ
深い!! さいあく!!

ヒンチャ

ヒンチャ

……

三十分後……

足が重い。
少しずつ深くなってるし、最悪すぎる。
少しの距離なのに、すごく長く感じる。

や 顔にかかるー

べと

ズグ

やっとだ! もう少し……
頑張れ、わたし……

あとちよっと!

フー

フー

あれ？左足が動かない？
なんで？

ギョ

何かいる!!
左足をつかまれてる！

ギキ

グイグイ

わわああああ！
何なの!?

やめてえええ！
はなして！

いや！
やだあああああ！

引っ張られる！
もう少しなのに！

ザッ

ハッ

うううう！ヤバイ！
引きずり込まれちゃった！

くうううう！くるしいい！
右手にも
何か巻き付いてきた！
このままじゃ・・・ううううう。

え！？

どうしよう・・・！
どうしよう！
冷静に・・・冷静になって
かんがえないと！

ぐぐぐううう

ぶぐうううう！！

ぶっ
ポッ

ん
ズ
ズ

ぶぐううぐうう
ぶううう！
いや！やだ！
うううん！んぐう！
ぐるじいいい！！

やめでええええ！
はなしてええええ！

ア
ん
ん

ド
ブ
ウ

ぶく

ぶくぶくおえ
ぶくぶくおえ

なにになに!? 口の中に
液体!? いやあああ!
どろどろして気持ち悪い!
飲みたくない! だずけでえ!
呼吸ができない... ごぼごぼ
うろう...!
こいつ離れない...!! いやああ!

ぐううう

ぶく

あああ...
意識が...
もう、限界...
オキル...
ルージュウ...

...い!
おい!
ネール...

誰?

ネール

これを持っていけ。

ルージュ?

わああ!
綺麗!
なにそれ?



これには私の魔力を込めてある。
何かあったら使え。
魔力をほんの少しこれに送れば
発動するから。

材料と時間の関係で
二つしか作れなかったから
慎重に使うんだぞ。

うん!
分かった!

そうだ!
ルージュに
もらった宝石!

使うよ...
ルージュ!





た、助かった？
うっ！オエ!!くっさいいい！
げええ…まだ舌にからんでるう…。
気持ち悪い…。



すごい威力…私の周りの
壁とか全部えぐれてる。
液体もほとんど蒸発してる。

うう…!!おっぱい丸見えだ…。
でも、気にしてられないか…。



よし！
進もう…。



…オキルのことが心配…。
とにかく、あいつに会って
話を聞かないとね！

体力が回復するまでは
このまま翼は
しまっておこうかな…。



あれ？行き止まり？
ここが一番奥なの？



はあ……はあ……。
うううう。少しはマシになったけど、
やっぱり、体力があまり残ってないみたい。



ここにいるの？
でも姿が見えない……。

おお！天使ちゃん！
待ってましたあ！

悪臭魔物
フケツパ

おうおう、いい恰好
してるじゃん！そそるう！

後ろ!?

モワ

なんて大ききなの…。

こいつ、すごい大きい！
体全体から悪臭がただよってる。
ダメ！くさすぎ！早く離れないと…。

そおれい!!

バチー

ぐうっ!!

ドン

ううううう。
いつつう…。

強い…。だめだ…。
私じゃ、こいつに勝てない…。

まずい……逃げなきゃ……。
痛っ！
ううう……ダメ、足が動かない！

ううう
イヤア

まってよお。
逃げないで俺と
楽しもうぜ！

いやあ！
近づかないで！
この悪臭野郎！

何でそんなこと言うんだよ！
こいつ！
おしおきしてやるう！

ほらほら！
反省してんのかよ！



ひっく……。やめでえええ。

お願い……。来ないでよお……。

たまらんなああ！俺の嫁にしてやるう！こっちにこいいいいい！

やだあああああ
いやあああああ！

いらないでス！
ビュン

いいぞお

その表情……。

気持ち悪いいい！
いや！やだああああ！

ううううぐううう
はなせえ！

ズズズー
ズズー



おまえ、俺好みの女だぜ。
じつくりと楽しもうぜええええ。

んぶ!!

もうはなれてえ!
汚い!!!

おい!
深呼吸しろ!
嗅いでくれ!ほら!

俺のちんこ...
いいニオイだろおお?

!?

重い!くるじいいいい!
もうやめでえええ!
おしつけないでえ!

ああ...きもちいいいい。
最高だああ。もうイきそうだああ。

うん
グサッ
ぐに

グサッ
グサッ





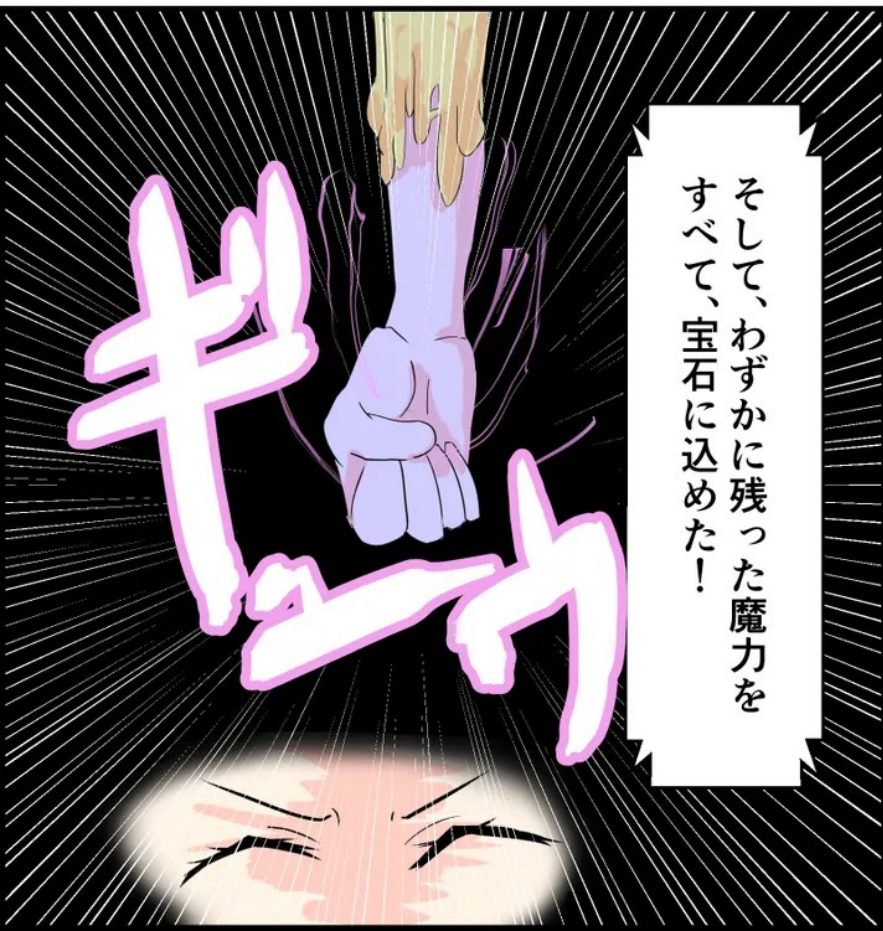
ふう…ふう。
きもちよかったぞお。
このまま、もう1回
いけそうだな。

おいしい！
生きてるかあ？



げええええ！おえええ！
口の中、からみついて…。
ひっぐ。おえええ！

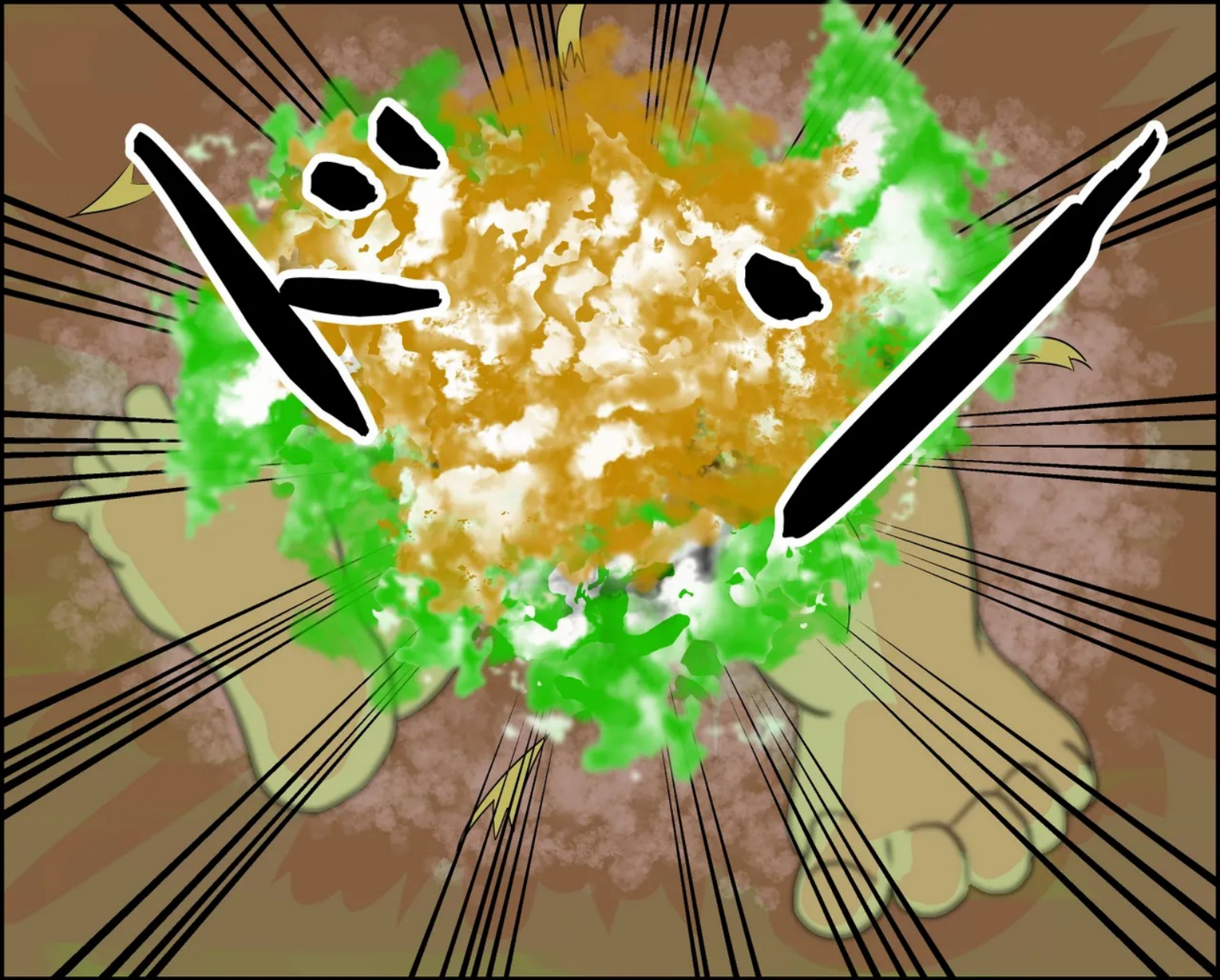
返事がないけど
まだ、かすかに動いてるな。
よし。再開だ！



そして、わずかに残った魔力を
すべて、宝石に込めた！



そのときネールは
ルージュにもらった
もう1つの宝石に手を伸ばしていた。



ハア
ハア

なんとか翼、出せた……！
飛んでるだけでもきついなあ……。
うう……体中くさい……最悪う。



よし！この爆風を利用
して上に飛んでいこう！

ハアサア

モク

ゴォォォォ

もう戦える力が残っていない。

これだけの爆発・・・
さすがに倒したよね？

モク



オキルはここにいなかった・・・
どこにいたの・・・？オキル・・・

体力が回復したら一度戻ろう。
考えるのは帰ってからにしよう。



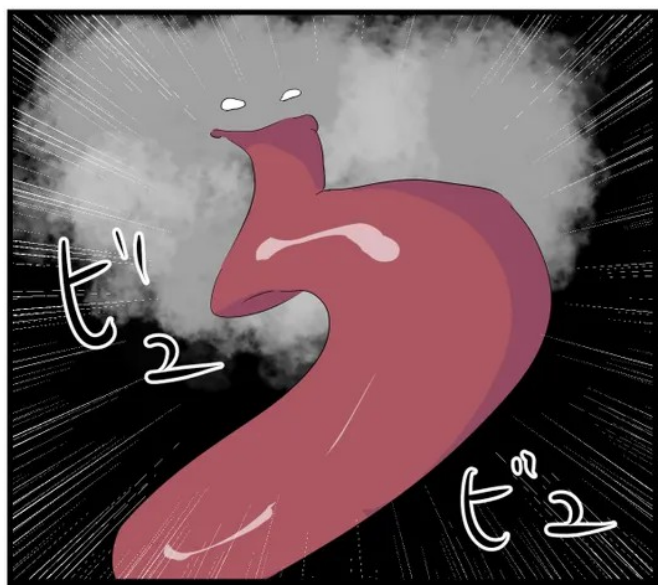
ガイ
ニイ

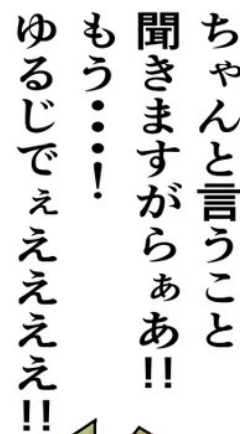
え!?



ビュ

ビュ





今度こそ……本当にダメえ。
ルージュの宝石も
残ってないし。
抵抗する力も……
もうない……。

ダス！もうダス！！いっぱいいい
だすぞおおおお！！

ふんがれで

ズフ。

ズッ

ハ
ラ
メ
ス
!!

セー

セー

ゼー
ア

ヒ

ア

ダ

メ

エ

エ

ああああ……。うううう。
目の前がかすんできた……。
ごめんね、オキル……
ルージュ……。

……き……ろ……

起きろ……ネール。

顔洗ってきな

朝ごはん、できてるぞ

え？ルージュ！
あれ？なんで？

わたし、魔物につかまって……

何寝ぼけてんだ？
ごはん冷めるぞ。

ん？



おいおい！
どうしたんだよ。
ネール。

ルージュう！ああああ！
こわかったようううう！

私、ちゃんとやれたんだね！

ああ！
よくやったな！
村のみんなもお前のこと
褒めてたぞ。

お前は自慢の
娘だよ……

へへ。ネールは
すごいんだぞお！

ハイハイ。
スゴイスゴイ。

なんだか、また
眠くなつて……
きちゃった……

……

……

フワァ

巢が思った以上に深くて
調査と魔物を倒すのにいつもよりも
すごく時間がかかった……

まさか、私が帰る数時間前にネールが
出発してたなんて……。っ！ごめんなさい！
私をもっと早く帰ってれば……！

私、ネールを探してくる！
私なら近くまでいけば
ネールの気配を
感じられるから！

いや、お前は悪くない。
私に責任がある。
魔物の巢はおそらく一か所だけでは
なかったのだろうな……

頼めるか？

うん！

ここで間違いない！
ネールの気配がする……！
無事でいてよお。
あんたには
まだまだ教える
こといっぱいあるんだから！
ううう……

うっ！

ナニ……？
このひどい臭い……！

この先から
声がする？
ネール？

ネールちゃん
すごい！すごいよお！

そうだぞお・・・ネールわあ・・・
すごいんだからああああ・・・

ネール

嘘でしょ!?

そんなことって・・・!

こいつ、夢見ながらイってやがる。
気持ちよさそうだなにより。
いいぞお！いいぞお！ククっ！

おや？来客か？
ぜんっぜんきづかなかったわあ。

本編 END

本編後 バッドエンド



オキルはフケツパの臭気により本来の力が出せない状態だった。
フケツパに攻撃をしかける前に触手に拘束されてしまった。

フケツパはオキルを自分のへそに頭から押し込もうとする。

オキル「うううええー！くっさいいいいーやめーっ……!!!
押し込まないでええええーいやー！」

その様子を虚ろな目で見つめるネール。

ネール「へえへえ……ああ……」

ネールは地面に放置され、もはや正気に戻る様子もない。
家族であり、親友でもあるオキルがそこにいることも分かっていない。

オキルの叫びはフケツパを興奮させるだけだった。
体から放たれる悪臭も相当なものだが
へその部分から放たれる激臭は、その比ではない。
フケツパのへそには汚れがびっしり、こびりついており
近づいただけで息が苦しくなってくる。

オキル「ネール！正気に戻って！おねがい……」

フケツパの怪力にオキルはどうすることもできない。
ついにオキルは、へその中に押し込まれてしまう。

オキル「いやあああああ！くさいいいい！やめてえ！近づけるなあ！
んぐうんんん！っん……」

フケツパ「お前も俺の嫁になるんだあ！しっかり俺の臭いを
しみこませてやるぞううう!!」

へそに押し込まれたオキルにフケツパの触手が迫る！
装備は破られ、乳房があらわになる。
オキルの口と肛門に触手がねじ込まれる。

オキル「……っ！んんぐう！」

「っんん！んんんー！ー！！
（いや！だしてえええ！助けてええ！！
くさいいいい）」

「はあああ…。
興奮するぜえええ。
たっぷりかわいがってやるう。」

んんん！！
んんん！！
んんん！！



もの

「おなかぐるじい。なんなの!?
だめえ...意識が...」

私が倒れたら誰がネールを助けるの!?
だめ!耐えないと...っ!んうう!!きもちわるいいい!」

ドク...!
ぐわうん

ドク
ドク

「お前の尻の穴から栄養を
流し込んでやってるぜ!元気になるぞお!」



「(うううう！っ！くさああああい！
ぜんぜん鼻が慣れてくれない！)」



「(な、なに！？
私の乳首に何か巻き付いてる！？
うう…やめでええ!!)」

「おお…!!ネールちゃんのもよかったけど
おまえのもなかなか良い乳首だなあ。」



オキルの乳首に巻き付いた触手は
すごい勢いで乳首を吸い始めた。
よけいに呼吸が苦しくなるオキル。

「ひいいいい!! 気持ち悪い!!
吸いつくなあぁ! げほっ! くるじいい!!」

ちゅっ♡
てっ♡

「これはネールちゃんよりも
俺は好きかもしれんな...。
もっといじらせてもらおうぞおお!!」



「ああ……だめだあ。我慢できね。
おめえがいけないんだぞお！
こんなエロい乳首しやがって！」

「何言ってるの!? こいつ！
意味わかんない! いつになったらここから
出してもらえるの!? もう……意識が……。」

ネールを助けるという強い意志で
意識を保っていたオキルだったが
体の方は限界が近づいていた。



意識を失いかける直前、触手の動きが急に激しくなった。
そのせいで気を失うことができなかったオキル。
ふたたび激臭がただよう空間で意識が覚醒する。

「な！なに!？」

んんんー！ぐるじい！のどの奥まで
入ってこないで！

っ！んう！息ができなっ！
おええええ！げええええ！
ぐざいいいいい！

「はあああ…はあ…
だすぞおお！受け取ってくれいいいいいっ！！」



フケツパが雄たけびを上げると同時に
大量の精液がオキルの口と肛門に送り込まれた。

「んううううーぶぶふう！おえええ…!!
おえええええ!!」

「ふひー！ふひー。
ぜえぜええ。気持ちいいぞ。
今日は良い日だあ。ネールちゃんにはない良さが
この娘にはある！気に入ったぞおおお！」



「よし、まだまだやるぞお！
今日は最高の一日だああ！」



「もうダメえ！もう無理！限界いいい！！
誰でもいいから助けに来てええ！
このままじゃ……うううう……ルージュうう……」

フケツパの触手からは精液と栄養、そして酸素が
オキルに送られ続けた。
せつかく手に入れたオキルを殺さないためだ。

酸素が送られてくると同時に、
すさまじい悪臭も流れてくる。
そのたびにオキルは悶絶した。
酸欠と激臭のループだ。

もはやオキルに抵抗する力は残っていない。

ネールは変わらず正気を失ったままだ。
仮にネールが動けたとしても、この魔物には到底かなわない。

オキル「……(ネール助けてあげられなくてごめんね……)」

オキルは抵抗することをやめた……。

フケツパ「二人とも！これからいつぱいい、いつぱい
かわいがってあげるからねえええええ！」

END

本編後 ノーマルエンド



オキルがネールのもとにたどりついてても
魔物は顔色ひとつ変えずネールを犯し続けた。
オキルが詠唱を始めたが魔物は余裕ぶって何も対処しなかった。

オキルの力量を見誤っていたことに
魔物が気づいたのは自分がこの世を去る、ほんの数秒前だった。

一秒にも満たない時間でオキルは翼を広げ魔物の頭上へ羽ばたいた。
オキルは怒りまかせに魔物の頭にありつただけの魔力を放った。

魔物の頭は吹き飛び、その後、塵となった。
オキルはネールを魔物の体から救いだし、急いで村へ連れて帰った。

オキル

消えろ



ルージュの看病のおかげでネールの怪我は、ほぼ回復した。
精神面も問題なさそうだった。

これをきっかけに魔物退治をやめてくれるだろうと
ルージュは期待していた。
だが、ネールはそうは考えていないようだ。
今回の件がきっかけで、やめるところか、
よけいに、やる気が増したようだった。

ネール・・・
まだ動いたらダメだって言っただろ？
家に帰って寝ているんだ・・・。
まったくお前は・・・。

ルージュ！もう大丈夫だよー！
いつでも見回りにいけるから！
魔物を見つけたら、この前の
怒りを全部ぶつけてやるぞー！

まだ
ダメだ！

END

